

# 奈弓連だより

通巻 235 号

令和3年9月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 松澤和実 中西省五

連絡先: [henshu@narakyudo.jp](mailto:henshu@narakyudo.jp)

## 第72回全日本弓道大会(通信大会)

### 山口選手(生駒支部)が3位入賞

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため通信大会となっていた標題の大会結果が、全日本弓道連盟より発表され、生駒支部の山口亮二選手が3位に入賞されました。

5中の2名が優勝、4中13名が3位入賞。従来の大大会であれば、2人の競射、13名の遠近競射となり、見ごたえのある大会となっていたことでしょう。来年度は従来のような大会運営ができるようになることを期待します。

(事務局)

## 少年女子、競射で追い上げ総合2位に

### 国体近畿ブロック大会を振り返って(国体少年チーム)

今年の国体少年チームの練習は、北信越総体が終わった8月4日から始まりました。前半は猛暑、後半は長雨の影響で、遠的の練習があまりできませんでした。加えて、コロナ禍のため、予定していた伊勢合宿も中止になり、足袋を履いて床の上で遠的をするのはブロック当日の練習が初めてという状況でした。

自信が持てないまま臨んだ前半の遠的競技は、男子が5位、女子が6位という結果でした。少年は6府県中2チームのみが本国体出場ですので、かなり厳しい状況です。後半の近的競技では、男子は5位、女子は1位でした。この時点で女子は総合得点で和歌山、京都と並び、2位決定の競射に臨みました。近的に自信を持っていた女子は6射5中で競射に勝ち、総合2位となりました。



近的 追いつける少年女子チーム

## 昇段おめでとうございます

8月地連審査会において次の方々が昇段されました。

(8月29日開催)

檀原公苑弓道場、ロート奈良弓道場)

### 四段

原 貢さん (郡山支部)

中川 修さん (奈良支部)

### 五段

脇阪 佳エさん (香芝支部)

尾沢 茂さん (奈良支部)

吉川 憲康さん (郡山支部)

向 恵さん (檀原支部)

佐藤 昭男さん (郡山支部)

福本 幸代さん (檀原支部)

おめでとうございます。

(事務局)

選手たちは懸命に練習し、大会でも最後まで精一杯の射をしてくれました。また、控え選手もしっかりサポートし、チーム一丸となって戦えたと思います。三重国体が中止となったことは、女子チームにとって残念でありませんが、奈良県代表としてこのような結果を残せたことを選手たちは誇りにしてもらいたいと思います。

来年に向けての課題は、遠的練習場の確保に尽きると思います。他府県に比べてハンディはありますが、なんとか遠的競技で自信が持てるよう練習させてあげたいです。

県弓道連盟の方々には様々な面でお力添えをいただき、ありがとうございました。今後とも少年チームへのご支援をお願いいたします。



### 少年男子チーム

監督： 高塚清稔 コーチ 澤隆明

選手： 松本優翔 金原那智 中野達也  
横田陽斗 多田春生

### 少年女子チーム

監督： 澤一彦 コーチ 藤村佳照

選手： 澤井花奈 沼田優美香 森山まこと  
片山綾菜 塩野天音

(文責 澤一彦)

### 近畿ブロック大会

奈良県勢の成績は以下の通りです。

少年男子：遠的5位、近的5位 総合5位

少年女子：遠的6位、近的1位

総合2位 (競射にて決定)

成年男子：遠的6位、近的2位

総合4位 (競射にて決定)

成年女子：遠的6位、近的5位 総合6位

以上

### 令和3年度8月地連審査、ビデオ審査 四段に2名、五段に6名が合格

8月29日(日) ロート奈良弓道場に於いて、地連審査が行われました。

まだまだコロナウイルス感染が続いておりますが、運営サイドはガイドラインに沿って、入館は30名以内とし、受付では体温測定を行い37.5度以上の方や体調のすぐれない方は受審を見合わせて頂いています。全員、チェックシートに記入し、行射時以外はマスク着用としております。担当支部の皆様にもご協力いただき、今後もなお一層感染防止に心掛けて

いきたいと思います。

受審申込締め切り後に大阪、京都、滋賀が緊急事態宣言及び蔓延防止等重点措置が適用となりました。該当地域からの受審を控える申し出があり、今回は受審料を返金する事と致しました。

尚、審査規定で五段査定は連合審査(3つ以上の地連が連合)で行う必要があります、和歌山の田中克彦先生(教士七段)と京都の秋元宣彦先生(教士六段)をお招きし、参段～五段までの審査をご担当いただきました。

審査結果は次の通りです。

級位	受審者 10名 (欠席1名)	1級査定 9名
初段	受審者 10名	合格者 9名
弐段	受審者 6名	合格者 5名
参段	受審者 19名 (欠席1名)	合格者 8名
四段	受審者 15名 (欠席1名)	合格者 2名
五段	受審者 16名	合格者 6名

令和3年度8月ビデオ審査(同日開催)の査定結果は次の通りです。

〈橿原公苑弓道場査定〉

級位	受審者 42名	1級査定 28名、2級査定 8名、 現級 4名
初段	受審者 106名	合格者 87名
弐段	受審者 10名	合格者 9名

〈ロート奈良弓道場査定〉

級位	受審者 3名	1級査定 3名
初段	受審者 45名	合格者 43名

(審査部 松村由喜子)

### 2021年度 中高夏季講習会

#### 暑さに負けず、真摯に取り組む

橿原公苑弓道場にて、高校の部は2021年7月24日と8月7日、中学の部は8月21日(8月28日は新型コロナウイルス感染拡大のため中止)に標記講習会が開催されました。

高校の部は、主任講師を西浦先生(両日)、講師を藤岡先生(7/24)、指導部(両日)が務め、中学の部は、指導部が講師を務めました。

高校の部・中学の部ともに「射技研修」「坐射の体配研

修」「失の処理」「入退場」にテーマを絞って、道場（前方・後方・道場出入口）を目一杯使い、テーマ別にグループ研修を同時に行いました。

講習会前半は、道場前方で4人立審査の要領で一手行射、後方では失処理の研修。講習会後半は、道場前方で坐射の体配研修、後方で射技研修、出入口付近で入退場の研修。入退場・坐射の体配研修時には資料も使いながらの研修となりました。高校の部2日目の講習会締め括りには仕上げの一手行射を行いました。

高校の部の閉講式では、藤岡先生から「やる気・素直さ・創意工夫を心掛け稽古に励んでください。」

西浦先生からは「弓道の醍醐味は会で弓と戦うこと。早気では戦うことは出来ない。早気は苦しいが自分の気持ち次第で変わってくる、弓道の面白いところを味わって欲しい。1日目の一手と比べて2日目の仕上げの一手は良くなっていました。そして、今回講習会で聞いた事は、学校に持ち帰ってみんなに伝えて下さい。」という講評を頂きました。

毎回約2時間半の研修内容はギュッと詰まったものになっていたと思います。配布された資料もまた読返しながら、これからの稽古に役立てて下さい。

3日間暑い中での講習会でしたが途中体調不良者も出ず、ほぼ時間通りに終了しました。



細かく指導を受ける高校生

(指導部 東中千佳)

## 全日本近的・遠的選手権大会・ねんりんピック壮行会 今年度は2部制にて開催

全日本近的・遠的選手権大会・ねんりんピックの壮行会が9月5日（日）に榎原公苑弓道場において、2年ぶりに開催されました。今年度はコロナ禍での密を避けるため、午前の部と午後の部の2部制にて行いました。午前の部29名、午後の部31名、演武者10名の参加で行われました。2部制のため演武者は午前と午後の部の2回演武をして頂き、その後に引き続き一般参加者による激励射を行いました。

通常であれば、道場にて円座になり昼食を全員で一緒に食べて、全国大会へ参加される方々にエールを送り、午後からは国体出場選手とのトーナメントが行われる予定でしたが、国体は大会の中止が発表され、国体の近畿ブロック予選を通過した少年女子チームには、残念な結果となりました。

最後は西中会長より「コロナの話ばかりで暗い世の中で、全国大会の開催も危ぶまれますが、そんな中でも大会が開催されれば頑張ってきて下さい。くれぐれもコロナ感染には気をつけて下さい。」という、激励訓示を頂き壮行会を終了しました。

(競技部 西田ゆり)

天皇盃 第72回全日本男子弓道選手権大会  
皇后盃 第54回全日本女子弓道選手権大会

上記大会がライブ配信（9/19）されました。

9/19（日）9：00～競技終了まで

後日、各選手のアップ動画が配信される予定です。

配信チャンネル

全日本弓道連盟 公式 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/watch?v=03YYbTQpiuc>

### ◆新型コロナウイルス感染防止対策・弓道ガイドライン（注意喚起事項）

9月1日に全日本弓道連盟より発出されました。行事の運営に限らず、通常の支部活動やクラブ活動等においても実施可能なものは取り入れて、緊張感を持って感染拡大防止に努めていただければと思います。各支部連絡員を通じて共有されていると思いますので、ご確認ください。

なお、奈良県弓道連盟においても、令和2年5月20日付でホームページにおいて「活動再開時における留意点」を公開していますので、改めてそちらもご覧になってください。



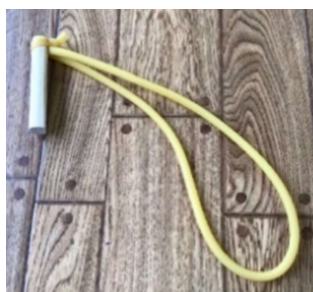
## 奈良県の支部、団体紹介

布目弓道場の「こどもの教室」を紹介します  
弓道では珍しい、小学校中学年からの教室です。  
以前は大人と同じ時間帯に、3 立ちのうち、真ん中だけ大的を立て、一緒に練習していました。今はコロナ禍ということで、密を避け、子どもと大人の時間帯を分けて練習しています。

道具には、様々な工夫がなされています。  
弓は寸詰り（並寸より三寸短い）の弓も用意されていて矢束の短い子どもが用います。矢は遠的矢を使用しています。カケは、角が入っていないくて弦溝のない柔帽子。溝に引っかからないので安全であり、緩み離れの癖もつきません。子どもたちはうまいこと離すなあと思っていたら、そういう安全への工夫があったのです。



弦溝がない柔帽子



子どもの手に合わせたゴム弓



初めはもちろん、礼などの所作から学び始めます。今の子ども達は膝をついたり、正座したりする事が少ないのか、初めは足がしんどいようでした。真っ直ぐに立つ事も、揺れないように弓を持つ事も中々大変そうですが、1年もすると、体もしっかりして体勢をキープすることができるようになってきます。

練習方法としては、射法八節をゴム弓、巻藁で練習し、  
的前となります。



的前では、大人とは違い大的に遠的矢を使用します。持ち的ではなく、一つのでの遠近競射のような動きです。一手を持って入りますが、引く時は乙矢を床に置いておき、早矢を引いた後、乙矢を持って退場し、また入場して今度は乙矢だけを



引きます。もちろん座射で行っています。子どもたちは色的の点数を競ったり、全員の合計点の目標を立てたりと自然に競

### 一つの要領での前練習

技としても楽しんで練習できているようです。計算も随分と早くなりました。

(松澤和実)

## 量る、測る、計る？



10月には全日本遠的選手権がありますね。  
といわけで、今月は遠的場の設置についてです。

常設の遠的場でない場合、的を載せる台の位置と的高さ、的から射位までの距離、立ち札の位置など、競技規則で定められた位置に設置しなければなりません。皆さん、覚えていますか？

的場の高さは射場と同じにします。

- ① 的の中心の高さ（床面より） cm
- ② 的面の後方への傾斜角度 度
- ③ 的から射位まで m
- ④ 射位における立位置の間隔 m
- ⑤ 本座から射位まで（標準） m

（答え ①97 ②15 ③60 ④1.6 ⑤1.1）

## 編 | 集 | 後 | 記

遠的場の設置について、競技規則をきちんと理解しないといけないと痛感しました。国体は中止となってしまうましたが、様々な行事が開催されています。各所からのガイドラインを守り、みんなで安心して弓が引ける環境を作っていきたいものですね。（中西省五）